

# 1月の主要経済指標

田中 修

## (1) 物価

### ①消費者物価

1月の消費者物価は前年同期比1.8%上昇し、上昇率は12月より0.2ポイント加速した<sup>1</sup>。都市は1.8%、農村は1.5%の上昇である。食品価格は4.1%上昇し(12月は2.7%)、非食品価格も1.2%上昇(12月は1.1%)している。衣類は1.9%上昇、居住価格は1.4%上昇した<sup>2</sup>。

(参考) 6月1.4%→7月1.6%→8月2.0%→9月1.6%→10月1.3%→11月1.5%→12月1.6%(2015年1.4%)→1月1.8%

前月比では、12月より0.5%上昇(12月は0.5%)した。食品価格は2.0%上昇(12月は1.5%)した。食品・タバコ・酒価格は1.4%上昇し、物価への影響は約0.42ポイントであった。うち生鮮野菜は7.2%上昇(12月は13.7%)し、物価への影響は約0.19ポイント、果物は4.0%上昇し、物価への影響は約0.06ポイントであった。畜肉類は1.5%上昇し、物価への影響は約0.07ポイント(豚肉価格は2.5%上昇、物価への影響は約0.07ポイント)であった。水産品価格は2.3%上昇し、物価への影響は約0.04ポイントであった。卵価格は3.3%上昇し、物価への影響は約0.02ポイントであった。非食品価格は0.2%上昇(12月は0.0%)、衣類は0.4%下落(12月は0.0%)、居住価格は0.1%上昇(12月は0.0%)であった。

食品・エネルギーを除いた消費者物価(コア消費者物価)は、前年同期比1.5%上昇(12月は1.5%)、前月比0.2%上昇(12月は0.0%)である<sup>3</sup>。

なお、国家統計局は、1月の前年同期比上昇率1.8%のうち食品・タバコ・酒価格の牽引効果は約1.07ポイントとなり、このうち食糧価格は0.7%上昇、物価への影響は約0.02ポイント、畜肉類は10.8%上昇、物価への影響は約0.47ポイント(豚肉価格は18.8%上昇、物価への影響は約0.44ポイント)である。このほか生鮮野菜価格が14.7%上昇、物価への影響は約0.37ポイント、果物価格が6.8%下落、物価への影響は約-0.12ポイント、卵価格が3.9%下落、物価への影響は約-0.03ポイント、水産品価格は2.7%上昇、物価への影響は約0.05ポイントであった。

なお、国家統計局都市司の余秋梅高級統計師は、1月の消費者物価上昇率が前期比でかな

1 直近のピークは2011年7月の6.5%である。

2 国家統計局によれば、2011年のウェイト付け改定で、居住価格のウェイトは20%前後になったとしている。

3 コア消費者物価は2013年から公表が開始された。

り大きかった 3 分野として、1) 極寒の天気の影響で、生鮮野菜・果物の生産・輸送に影響が出た。春節が近く市場需要が増加し、豚肉価格が上昇した、2) 冬休み・春節期間の観光客が増加し、交通・観光費が顕著に上昇した、3) 春節が近づき、家事サービス・美容・クリーニング等のサービス需要が増加した、点を挙げている。また、前年同期比上昇幅が拡大した理由として、1) 豚肉・生鮮野菜・航空チケット代・旅行社手数料の価格の上昇率が高かった、2) 労働力コスト上昇の影響を受け、家事サービス・美容・クリーニング・エステ等の価格が上昇した、としている。

## ②工業生産者出荷価格

1月の工業生産者出荷価格は前年同期比 5.3%下落し、12月より下落率が 0.6 ポイント縮小した<sup>4</sup>。前月比では 12月より 0.5%下落（12月は-0.6%）した。

（参考）6月-4.8%→7月-5.4%→8月-5.9%→9月-5.9%→10月-5.9%→11月-5.9%  
→12月-5.9%（2015年-5.2%）→1月-5.3%

1月の工業生産者購入価格は、前年同期比 6.3%下落（12月は-6.8%）した。前月比では 12月より 0.7%下落（12月は-0.7%）した。

なお、国家統計局都市司の余秋梅高級統計師は、工業生産者出荷価格の前月比下落幅は縮小したが、その原因は、1) 黒色金属精錬・圧延加工価格、非鉄金属採掘価格が下落から上昇に転じ、2) 非鉄金属精錬・圧延加工価格が下落から同水準に転じ、3) 化学原料・化学製品製造価格の下落幅が縮小したからだとする。また、前年同月比の下落幅は縮小となったが、これは昨年 1月のベースがかなり低かったためであり、黒色金属精錬・圧延加工、石油加工、非鉄金属精錬・圧延加工、化学原料・化学製品製造価格の下落幅はかなり大きく、全体の下落の 53%前後を占めているとしている。

## ③住宅価格

1月の全国 70 大中都市の新築分譲住宅販売価格は前月比 24 都市が低下（12月は 27）し、8 都市が同水準（12月は 4）であった。上昇は 38 であり（12月は 39）、最下落はウルムチ -0.8%（12月は丹東-0.9%）、最上昇は深圳 4.1%（12月は深圳 3.2%）となっている。

前年同月比では、価格が下落したのは 45 都市（12月は 49）であった。同水準は 0（12月は 0）、上昇は 25（12月は 21）である。最下落は湛江 -4.9%（12月は丹東-5.3%）、最上昇は深圳 52.7%（12月は深圳 47.5%）となっている。

国家統計局都市司の劉建偉高級統計師は、「新築分譲住宅価格の前月比総合平均上昇率は 12月より 0.4 ポイント拡大し、中古住宅価格は 12月より 0.6 ポイント拡大した。中古住宅の前月比最上昇は 5.7%であり、12月より 2.4 ポイント高まった。都市間の住宅価格分化現象は依然続いており、住宅価格の顕著な上昇は主として一線都市と個別の二線都市に集中しておる。二線都市は総体としてやや上昇し、三線都市は引き続き安定の中でやや下落する態勢を示している。1月の中古住宅価格が前年同期比で上昇した都市は 40 と 12月より 5 増え、うち 34 都市の上昇率は 12月より拡大した。一線都市の住宅価格の平均上昇率

<sup>4</sup> 直近のピークは 2011 年 7月の 7.5%である。

は 20%を超え、二線都市の 1%前後よりはるかに高く、絶対多数の三線都市はなお下落している」と指摘している。

## (5) 対外経済

### ①輸出入

1月の輸出は 1774.75 億ドル、前年同期比-11.2%、輸入は 1141.88 億ドル、同-18.8% となった<sup>5</sup>。貿易黒字は 632.87 億ドルであった。

(参考) 輸出： 6月 2.8%→7月-8.3%→8月-5.5%→9月-3.7%→10月-6.9%→11月-6.8%→12月-1.4% (2015年-2.8%) →1月-11.2%

輸入： 6月-6.1%→7月-8.1%→8月-13.8%→9月-20.4%→10月-18.8%→11月-8.7%→12月-7.6% (2015年-14.1%) →1月-18.8%

1月の輸出入総額が 2916.64 億ドル、前年同期比-14.3%であったのに対し、対 EU-14.1%、対米-14.5%、対日-10.4%<sup>6</sup>、対アセアン-15.3%である。

1月の労働集約型製品のうち、アパレル類前年比-7.2%、紡績-2.7%、靴-11.9%、家具-9.9%、プラスチック製品-3.9%、靴-4.2%、玩具 11.7%増である。電器・機械は同-11.4%である。

### ②外資利用

1月の外資利用実行額は 140.7 億ドルであり、前年同期比 3.2%増であった。

(参考) 6月 0.7%→7月 5.2%→8月 22%→9月 7.1%→10月 4.2%→11月 1.9%→12月-5.8% (2015年 6.4%増) →1月 3.2%

1月、製造業は前年同期比-8%、全体の 25.3%を占める。サービス業は同 5.7%増、全体の 67.6%を占める。

1月、国別では、日本は 22.8%増 (2015年は-25.2%)、米国は同 463.6%増、EU は同 30.9%増、アセアンは同-6.1%である。

1月、地域別では、東部 4.1%増、中部-22.2%、西部 16.9%増である。

### ③外貨準備

1月末、外貨準備は 3兆 2308.93 億ドルであった。12月末の 3兆 3303.62 億ドルに比べ 994.69 億ドルの減少である。

### ④米国債保有

12月の米国債保有高は、中国が前月比 184 億ドル減の 1兆 2461 億ドル、2位の日本は 224 億ドル減の 1兆 1225 億ドルであった。

## (6) 金融

1月末の M2 の残高は 141.63 兆円、伸びは前年同期比 14.0%増と、12月末より 0.7 ポイ

<sup>5</sup> 前月比では、輸出-20.6%、輸入-30.5%である。12月の季節調整後前年同期比は、輸出-9%、輸入-14.9%、前月比は輸出-15.9%、輸入-21.6%である。

<sup>6</sup> 1月の輸出は 112.3 億ドル、-5.3% (12月は-4.6%)、輸入は 91.9 億ドル、-15.9% (12月は-9.5%) である。

ント加速し、前年同期より 3.2 ポイント加速した。M1 は 18.6%増で、12 月末より 3.4 ポイント加速し、前年同期より 8.1 ポイント加速した。1 月の現金純放出は 9310 億元であった。

人民元貸出残高は 96.46 兆円で前年同期比 15.3%増であり、伸び率は 12 月末より 1.0 ポイント加速、前年同期より 1.4 ポイント加速した。1 月の人民元貸出増は 2.51 兆元（12 月は 5978 億元）で、前年同期より伸びが 1.04 兆元増加している。うち住宅ローンは 6075 億元増、企業等への中長期貸出は 1.06 兆元増であった。

人民元預金残高は 137.75 兆円で、前年同期比 12.5%増であった。1 月の人民元預金は 2.04 兆元増（12 月は 370 億元減）で、前年同期より伸びが 3725 億元増加している。うち個人預金は 8894 億元増、企業預金は 7059 億元増であった。

（参考）M2 : 6 月 11.8%→7 月 13.3%→8 月 13.3%→9 月 13.1%→10 月 13.5%→11 月 13.7%→12 月 13.3%→1 月 14.0%

1 月の社会資金調達規模は 3.42 兆元であり、前年同期比 1.37 兆元増となった。うち、实体经济への人民元貸出<sup>7</sup>は 2.54 兆元増（伸びは前年同期比 1.07 兆元増）、委託貸付は 2175 億元増（同 1343 億元増）、信託貸付は 552 億元増（同 500 億元増）、企業債券による純資金調達は 4547 億元（同 2679 億元増）、非金融企業の株式による資金調達は 1469 億元（同 943 億元増）である。

（2 月 26 日記）

---

<sup>7</sup> 一定期間内に实体经济（非金融企業と世帯）が金融システムから得た人民元貸出であり、銀行からノンバンクへの資金移し替えは含まない。